

ユースケース：3DCG活用のデジタルツイン・リアルタイム設計開発

現状のインターネット回線では困難な3DCGを活用したリアルタイムでの共同作業が、大容量低遅延のIOWN APNによって可能になります

背景/課題

複数企業間のデジタルツインによる共同作業

高精細3DCG利用へのニーズの高まり

高価なGPUの投資及び管理

Why IOWN

膨大なデータをリアルタイムで共有可能

より直感的な高精細XRの利用

GPU over APN/分散型CPFの利用

*CPF: コンピューティングプラットフォーム

構成イメージ



デジタルツイン

